

あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
6月号 No. 664 令和5年5月31日
青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望

自ら考え、行動する主体性の伸長 ～「特別活動」から～ 校長 関谷 望

5月18日（木）の朝、校庭で児童集会を行いました。内容は集会委員会の子供たちが考えた「自己紹介進化じゃんけんゲーム」。ルールを紹介すると、「校庭を自由に動いて、出会った人と自己紹介をします。」「一人一人は『アリ』からスタートして、じゃんけんには勝った人は『ネコ』→『キリン』→『ゾウ』と「進化」することができます。」「動物にはそれぞれ決まったジェスチャーがあり、同じ動物同士でしかじゃんけんをすることはできません。」「同じ学年の子とはじゃんけんをすることができません。」「じゃんけんに負けてしまった人は、ひとつ前の動物にもどります。」「『ゾウ』で勝った人は『神』に進化できて、ゴールです。朝礼台前のスペースに来てください。」というようなものでした。

なかなか難しいルールで、「低学年の子供たちにわかるかな」と思いましたが、集会委員会の子供たちが実演しながら説明したり動物カードを掲げたりとわかりやすく説明し、多くの子供がすぐにルールを理解できました。

いざゲームがスタートすると、すぐに6年生が低学年のところに駆け寄ってリードして一緒に遊ぶ姿や、積極的に他学年に声をかけている子供たちの姿、なかなか声が掛けられない子供を思いやって話しかける姿等々、ほほえましい姿が校庭いっぱいになりました。先生たちも一緒に遊び、私にもたくさんの子供が話しかけに来てくれました。子供たちにも先生たちにも自然と笑顔が広がる、とても素敵なひとときとなりました。

令和2年度からの3年間は、新型コロナウイルス感染症対策として、全校児童が一堂に会して活動することを避けていましたので、このような一緒に遊ぶ活動は実施することができませんでした。今年度は3年ぶりに集会委員会を組織し、初めての集会活動でした。わずか15分の活動ですが、このような活動が子供たちの様々な心や力を養うことを改めて感じました。

河辺小学校では、5・6年生が集会委員会を含め8つの委員会に分かれて活動しています。「委員会活動」は、「特別活動」と呼ばれる活動の一つです。河辺小では必ず事前の計画を、担当教員とその回の活動を担当する児童が話し合う時間を持ち、実際の委員会活動の時間や（上に紹介したような）活動場面では、「先生に言われた活動をする」のではなく、児童自らで話し合いや活動を進められるようにしています。このように進め方は、教員が指示して進めるよりも圧倒的に時間と手間がかかりますが、河辺小では学校経営方針の一つ「自ら考え、行動する主体性の伸長」を目指す活動として大切にしています。

「特別活動」には委員会活動以外にもクラブ活動（課内：4年生以上で組織）や、学級での学級会活動や係活動、さらに学校行事なども含まれます。それぞれの活動を上手にスムーズに進めることだけでなく、それぞれの活動で自主性など「心」や「力」を育ていけるよう、子供たちが自ら考え、行動できる場面を多く設定するように努めています。

このような取組を通して、「変化の激しい現代社会を、自ら考え判断して生き抜く能力」の礎となる力を育ていきたいと考えています。ご理解・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。